



<ラムサール通信>

2021年9月29日発行 第208号

●第110回<ワイズユース>ワークショップ(10月17日)開催のお知らせ●

RCJの第110回<ワイズユース>ワークショップを、下記のとおり開催します。

今回の<ワイズユース>ワークショップは、Zoomを用いたオンラインでの開催となります。今回は福岡女子大学の竹内亮さんより、ホテイアオイを用いたバイオガス装置の実証研究についてお話しいただく他、会員の尾崎友紀さんより、ラムサールセンターがインテュムコンサルティングに協力しているPWW事業について紹介いただきます。どなたでもご参加いただけますので、多くの方の参加をお待ちしています。

【日時】： 2021年10月17日(日) 10時~12時

【会場】： オンラインでの開催

Zoom ミーティング ID : 848 2714 5905

ミーティングパスワード : Wuws110

【プログラム】 ベトナムメコンデルタ地域におけるコミュニティバイオガス装置の実証研究

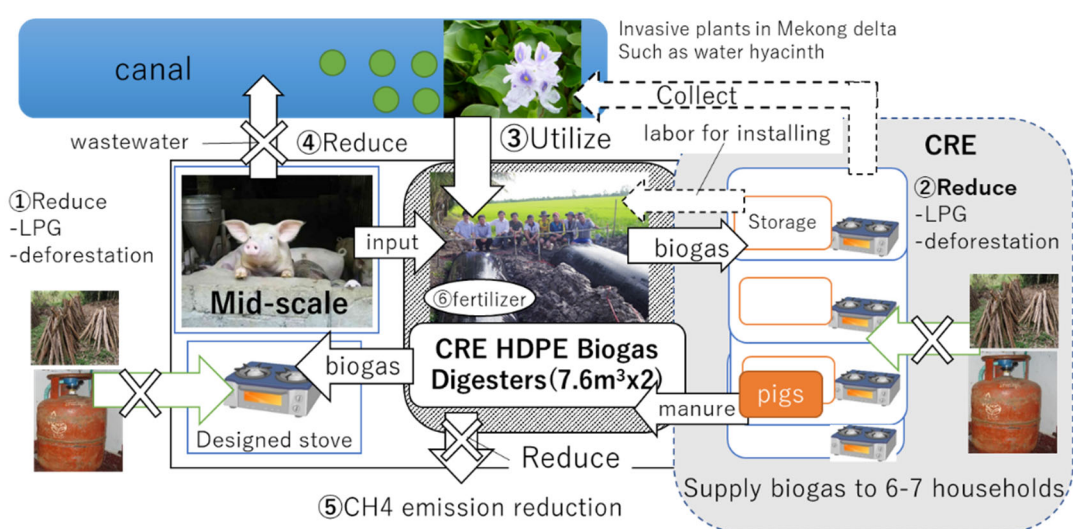
-ホテイアオイを資源として活用して-

【スピーカー】 竹内亮さん(福岡女子大学 講師)

【目的】 豚のし尿を利用したバイオガスは、小規模養豚が普及するベトナム農村において一般的な再生可能エネルギーの一つである。しかし、投入要素の値上がりと豚肉売価の低下により、小規模養豚農家の採算性は悪化している。小規模養豚をやめた場合、し尿もなくなるため、バイオガス装置は利用不可となる。逆に、経営規模を中規模化した場合は、バイオガス装置に対してし尿が供給過多となり、余剰メタンの大気中への放出および、処理できないし尿による周辺環境の悪化が懸念される。本研究は、バイオガス装置を複数家計のコミュニティで利用可能な装置(CRE: Community Renewable Energy)に発展させることにより、上記の課題を解決する。

また、し尿の供給が不安定であるという課題を解決するため、近くの水路に生息する外来植物のホテイアオイをバイオガスのソースとして活用できるよう装置の設計を行った。

【手法】 2018年にカントー市において次頁図のBD装置を実際に設置し、その後、環境影響と経済分析を行った。従来のBDとの違いは、コミュニティの複数家計でバイオガスが利用可能な点および、水路に生息する外来植物のホテイアオイを燃料源として使用可能なように設計されている。



【結果】 環境面の便益としては、従来型と同等の周辺水路の水質の大幅な改善と、余剰として排出されるメタンガスが従来型の装置に比べて改善されることが確認された。経済的評価としては、供給する家計数が確保されれば、従来型に比べて採算性があることがわかった。

【結論】 本研究は、実証研究の段階であるが、今後は初期費用の問題など現段階での課題をとりまとめ社会的実装を見据えて、新型コロナ禍が終息したのちの活動を模索中である。

【プログラム】 日本のラムサール条約登録湿地の今と魅力 -People, Wetlands, Wildlife 活動を通じて-

【スピーカー】 尾崎友紀 (会員・インテムコンサルティング)

【要旨】 ラムサールセンターが協力している国内活動「People, Wetlands, Wildlife (以下、PWW)」は、日本国内ラムサール条約登録湿地へのインバウンド (訪日外国人) の誘引を目的とし、湿地や野生動物、そこに生活する人々の暮らしや文化を、英文で紹介する情報発信・普及啓発活動である。

本活動はインテムコンサルティングが環境省補助金 (野生動物観光促進事業) を受けて実施しており、今年で3年度目の活動となる。ウェブサイト「People, Wetlands, Wildlife (<https://pwwj.org>)」を立ち上げ、現在までに13か所の湿地のコンテンツが公開された。コンテンツの特徴としては、在日30年以上のアメリカ人であるJames McGillさん (インテムコンサルティング シニアコンサルタント) と、ラムサールセンター前事務局長である中村玲子さんが、インタープリターとして各湿地に訪問し、それぞれの魅力を紹介している。令和元年度・2年度で制作したコンテンツの対象湿地は、釧路湿原、霧多布湿原、厚岸湖・別寒辺牛湿原、風蓮湖・春国岱、野付半島・野付湾、濤沸湖、蕪栗沼周辺水田、志津川湾、尾瀬、円山川下流域・周辺水田。令和3年度の活動では、葛西海浜公園と谷津干潟の新規コンテンツを追加予定である。

PWWコンテンツの製作チームとして、13か所の湿地に訪問し、その湿地保全や管理に携わる地元の人々への取材に同行をしたことで、各湿地の「今」と「魅力」を肌で感じる事ができた。本発表では、写真や動画を交え、各湿地の最新情報を紹介する。

●第111回<ワイズユース>ワークショップ(11月20日)開催のお知らせ●

第111回<ワイズユース>ワークショップとして、2003年から始まった日中韓子ども湿地交流及び、2006年から国内で実施したKODOMOラムサール、2009年からのKODOMOバイオダイバシティの参加者のOB&OGによるオンライン座談会を行います。4~5人の参加者OB&OGの近況や環境活動との関わり、今後やりたいことなどを話す予定です。後半はこれまで数多くのKODOMOイベントに関わった副会長の中村大輔先生も交えながら、過去のイベントの思い出やエピソードを、写真等の資料を交えながらの紹介を予定しています。

これまでKODOMOイベントに参加された方、携わってきた方など、KODOMOイベントに関わってきた方に幅広く参加いただきたいと思います。終了後希望者の方でのフリートークも開催予定です。皆様ぜひご参加ください。

【日時】： 2021年11月20日(土) 時間：15時~17時

【会場】： オンラインでの開催

Zoom ミーティング ID： 834 3822 2436

ミーティングパスワード： Wuws111

●<ワイズユース>ワークショップ リマインダー設定について●

<ワイズユース>ワークショップの開催にあたり、希望者へのメールによるリマインダーを送付いたします。開始1時間前に、リマインダーとして、ワークショップZoom参加のお知らせを、改めてメールにてご案内します。ご希望の方は下記のURL、およびQRコードにアクセスいただき、必要事項をご記入ください。

○申し込みURL：<https://forms.gle/rW1GRCFUcRkdefBa8>



●「コウノトリ未来・国際かいぎ」が開催されます●

兵庫県・豊岡市において10月30日(土)~31日(日)にかけて、「第6回コウノトリ未来・国際かいぎ」が開催されます。「コウノトリ未来・国際かいぎ」は兵庫県と豊岡市が主催する国際会議で、コウノトリ野生復帰実現に向けた技術・知見の集積、およびそれらを支える持続的な地域づくりの促進のため、これまでの取組の成果や課題を国内外で共有し、今後の人とコウノトリの未来について議論をする会議です。

今年3月下旬にラムサールセンターが支援した「コウノトリ KODOMO かいぎ」に参加した日本各地の子どもたちも、2日目のセッションに参加し、各地の取組やKODOMO会議の後の成果発表などを行う予定です。セッションの進行はRCJ副会長の中村大輔先生が務めます。他にも1日目、2日目ともに人とコウノトリの共生をテーマに様々な講演やプログラムが行われます。現在豊岡市HPから参加申込を受け付けておりますので、ぜひ皆様ご参加ください。

○会場参加申し込みURL：

<https://www.city.toyooka.lg.jp/konotori/topicsevent/ekonotori/1017763.html>



また、本会議はオンラインでのライブ配信を行います。10月1日(金)より申し込みを開始しますので、ご希望の方は下記URLより視聴者登録をお願いします。

○配信申し込みURL：

<https://www.city.toyooka.lg.jp/konotori/topicsevent/ekonotori/1017993.html>



●聖学院大学政治経済学部との公開講演会共催企画について●

2021年10月27日(水)に、聖学院大学政治経済学部の公開講演会「ポストコロナ時代の環境保全活動へのいざないーローカルな協働とグローバルな連帯へー」が開催されます。この企画はラムサールセンター共催の下、コーディネーターが鈴木詩衣菜さん(会員・聖学院大学政治経済学部助教授)、講師としては、会長の岩崎慎平さん、会員の佐藤琢磨さん、中村玲子さんがそれぞれ発表を行います。内容の詳細は、同封の講演会案内をご確認ください。参加申込の詳細は聖学院大学HPに後日掲載されますのでご確認ください。

●助成金事業の採択について●

○令和3年度 野生動物観光促進事業「People, Wetlands, Wildlife」

先のワークショップでのご案内でも記載したとおり、ラムサールセンターがインテュムコンサルティングに協力をしている同事業が、令和3年度も採択されました。今年度は葛西臨海公園と谷津干潟をコンテンツとして加える予定です。

○令和3年度 緑の募金公募事業 (NALAPO)

令和3年度の緑の募金公募事業が採択されました。今年度は「バングラデシュ国テクナフ半島の住民による森林再生」という事業名で、バングラデシュ POUISH を現地カウンターパートとし、テクナフ半島の20サイトを対象にした植林活動を行います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 会員近況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○工学博士を取得しました(副会長 田辺篤志)

9月に熊本大学大学院 自然科学研究科で、工学博士を取得しました。引き続き皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。